

■ どうなるコメ価格 政策転換の壁は高値を守りたい「JA と族議員」？

毎日新聞 2025/9/13 18:00 (最終更新 9/13 18:51)

<https://mainichi.jp/articles/20250912/k00/00m/040/088000c>

コメの生産量が足りなかった――。

政府は8月、今の米価高騰は事実上の減反が原因だとようやく認め、増産に切り替えるとした。世界的にも異常な減反は日本の何をゆがめたのか。農業協同組合(JA)の問題性や、石破政権退陣後の政策転換の行方は。農業に詳しい大泉一貫・宮城大名誉教授に聞いた。

新米は4500円程度か

――今年の新米の出来はどうですか。

猛暑や水害の影響で厳しいかもしれないと盛んに言われていますが、実際に北海道や新潟県、福島県など大きな産地に聞くと、まあまあ順調そうです。出来高は10月末～11月ごろにははっきりしますが、例年並みに落ち着く可能性があります。

――注目される価格の見通しは？

各地のJAが農家に前払いする「概算金」が前年の約1.7倍に上っています。

猛暑などでコメの需給が逼迫(ひっばく)しかねないという臆測が飛び交い、当初は60キロ2万3000～2万5000円としていた概算金を、一気に2万8000～3万円に引き上げる動きが広がったためです。

今のところ、新米価格の中央値は5キロ4500円程度だと私は見えています。

10月末～11月に平年並みの供給量だと分かれば、これを少し下回るのではないのでしょうか。

――依然として高いですね。この高水準が1年間、続くのですか。コシヒカリなどの銘柄米はそうです。

一方、5キロ2000円程度の随意契約の備蓄米は今、月3万～4万トンが少量ずつ供給されています。

備蓄米はまだ約20万トン残っており、今後5カ月程度は低価格米を求める人のニーズに応えられるでしょう。

ただ飲食店やスーパーなどで需要が多いのは3000円台のコメです。2024年産の銘柄米は古米となり値下がりするので、9～10月は3000円台も供給できますが、すぐ底をつきます。

3000円台のコメがなくなったら何が起きるか。

その需要に応じるため、10月ぐらいから米国産など輸入米がどっと入ってくると推測しています。

農家を大規模化するのが嫌だった

――減反政策を続けた結果、輸入が増えるとは納得できません。減反は元々、問題が多い政策ですね。

減反、つまりコメの生産調整をしてきたのは「米価維持」のためです。コメが余って米価が下がらないようにするものです。しかし、日本は人口減少などで国内需要が減っており、「需要に見合った生産」を続けられれば、いずれ稲作が衰退するのは目に見えています。

――減反は世界的に見ても異常な政策とされますが。

多くの国の農業は、価格維持どころか、生産コストを抑えて農産物の価格を引き下げ、世界市場で売ろうというのが基本路線です。小麦も大豆もみな同じです。例えば、欧州各国は1993年に「関税貿易一般協定(GATT)ウルグアイ・ラウンド」が開かれる以前は、農産物の輸出に補助金を出して輸出増に努めてきました。

日本も同じ戦略をとればよかったのに、「日本の農地は狭いから、他国にかなわない」とし、そうしませんでした。しかし米国や豪州ならまだしも、農地が狭いのは欧州各国も同じです。

――デンマークの畜産やオランダの花など、農地が狭くても農業を輸出産業にしている国は少なくありませんね。

ウルグアイ・ラウンドで輸出補助金の廃止が決まって以降、欧州が力を入れたのは構造改革です。

大規模農家を増やし、低コストで生産できるよう政策を進め、輸出増を推進しました。

その結果、00年代から欧州の農産物輸出は飛躍的に伸びたのです。

――日本のコメがそうできなかった根本理由は何ですか。

一言で言えば、農家を大規模化するのが嫌だったのでしょう。

以下有料記事で読まれず・・・

何かと話題になった今年の米価 生産者と消費者 そして流通と倉庫 利権が絡み合う中で、政治が介入

さてさて、本当のところは見えないなあ ブラックボックスにされてきた利権 今年はみんなが政治を直視している

Mutsu Nakanishi



価格の高騰が続いたコメ＝東京都江東区で5月23日、滝川大貴撮影

【現論】驚きの参院選結果
「裏の言論」が公然化

【視標】武力に頼り洗脳
日本と同じ過ち イスラエル犯す



神戸新聞NEXT 2025/8/21 05:00 より転記

見慣れ、聞きなれた言葉で語られてきた、マスコミ・TV の論調。

SNS で語られる論調は良く知らないが、今の日本 何が信用できるのかよくわからぬ時代。

置いてきぼりにはなりたくはないが、そのまま何かについていく気もない。

書き物として 1 個人の声がきけるコラムやオピニオン欄にもしっかり目を向けねば……

また、外国では日本をどう見ているのか… 「個人の生の声」が知りたくて、こんな記事が目にとまり読みました。
真偽や主義主張はそれぞれ。でも 自分にも対峙してみればいいかなあ……と。

From Kobe Mutsu Nakanishi

＜現論＞驚きの参院選結果、「ウラの言論」が公然化
ノンフィクション作家 保阪正康

今回の参議院選挙の結果を見て、意外な事実気がついた人はどれだけいるであろうか。

結果を受けて、政局を分析する報道はいつも通りである。

具体的には、石破茂首相はいつまで続投するのかという論じ方である。

1955年の結党以来、自民党が衆参両院で少数与党となるのは初めてのことから、政局に焦点が絞られるのはおかしくはない。

しかし私が「意外な事実」というのは、今回の選挙が二つの特徴を有していることを指している。

第一に、これほど現代日本の国民意識が鮮明になった選挙はないという点。

もう一点は選挙が欲求不満のはけ口になっているということだ。

今年は「昭和100年」とか「戦後80年」とか言われる節目の年でもある。



この事実に関与されている選挙結果ではないか、とも思う。

人々に節目に合わせて画期をなしたいという心理があるなら、それがこの選挙ではなかったか、とまで私には思える。

■国家との一体化

若干の説明を加えるなら、これまでの日本の国政選挙は構図がどこか曖昧でいかようにも解釈できた。

結果について多様な仮説が成り立った。

しかし今回は「国家主義的政党」「国民政党右派」「国民政党左派」「リベラル派」という4極に分かれ、特に国家主義的政党の台頭が鮮明化した。かつての選挙では国家主義的政策が正面切って論じられることはなかった。

戦後社会の約束のようなものであり、自民党には国家主義勢力を抱え込む懐の深さがあった。

以前、副総理を務めた自民党の故後藤田正晴氏が

「そのような連中を抱え込みつつ、わが党の枠組みに組み込んでいたんだ」と述懐したことがあったが、それは当たっていると、私には思えた。

しかし安倍政権後、国家主義的思考のグループは政治資金問題、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)への批判などで、党内での地歩を失った。参政党や日本保守党は、その受け皿になったということであろう。

こうした勢力に30代から40代の中核的な勤労世代が支持を与えたという指摘があるが、私には納得できる。

この世代は高税率にいら立ち、税金が無駄に使われているとの主張や排外主義的な政策を声高に叫ぶ政党に共感したのだろう。

加えて今回の選挙には、新自由主義的な政策で雇用の不安定や低賃金に怒る層が、自らの存在を国家と一体化して安定を得たいとの心理も反映されていると見るべきだ。これが国家主義的政党が台頭した因でもあるのだろう。

これまでの選挙で、これほどあからさまに弱者保護への批判、排外主義的言説、そして復古的価値への回帰論が公然化したことはない。

民主的価値を前提とする「オモテの言論」に対して、これらは「ウラの言論」という暗黙の了解があった。

この社会のルールが崩壊したと見ても良いのではないだろうか。

■自制心も見えた

この国家主義的な「ウラの言論」が実は戦前・戦中の社会では「オモテの言論」を成していた。

「オモテ」と「ウラ」が逆だったことを知っておくことは必要である。

もう少し分かりやすく言うならば、国家主義的政党の憲法論などは、戦前の「オモテの言論」をなぞっているだけだという見方をしてもおかしくはないであろう。

今回の選挙が日本社会の意識の構図を明確に示したと、私が断じるのはこのような意味があるのだ。

その点に、私は興味があるのである。

今年は前述のように「戦後80年」「昭和100年」の節目になるわけだが、今回の選挙はその突出した現象のようなものだという点も、補足して説明しておきたい。

確かに「オモテの言論」の主流をなす非戦や人権などのスローガンに、「ウラの言論」の鼓吹者が公然と異議を申し立てた。だが、私は国家主義的政党に票を投じた勤労世代が、内心では「こんなに力を持つべき政治勢力ではない」との自制心を持っていることも知っている。

実際に講演会で、その種の自省的発言を聞かされた。それも意外に多くである。

それゆえにというべきか、次の国政選挙ではこうした勢力の現状維持は難しいのではないかと思っている。

今回の驚きの選挙結果は、節目の年の「記念行事」に終わらせることに意味があると思うのである。

【ほさか・まさやす】1939年、札幌市生まれ。同志社大卒。「昭和史を語り継ぐ会」を主宰。

昭和史の実証的研究を独自の視点で続ける。2004年に菊池寛賞。

著書に「昭和陸軍の研究(上下)」「昭和天皇実録 その表と裏」「ナショナリズムの昭和」(和辻哲郎文化賞)など。

■<視 標> 戦後80年とガザ攻撃 武力に頼り洗脳、日本と同じ過ちイスラエル犯す
平和運動家 ダニー・ネフセタイ
2025/8/21 05:00

日本に滞在してほぼ45年、私は母国イスラエルと日本を見つめ、お互いから学べること、お互いの過ちについて深く考える日々を過ごしてきた。

2008年のイスラエルによるガザ攻撃以降、全国で「戦争と人権」をテーマに講演を続け、北は北海道・稚内から南は沖縄県・石垣島まで、計800回以上講演した。

イスラエルでは自国民について「選ばれた民族」「世界一頭のいい民族」などの発言がなされる。こんな雰囲気の中に育つと私たちは知らず知らずにそう思うようになる。

違うと思っても、いつの間にか自分も染まってしまう。こんな考えを持つと近隣諸国と仲良く暮らすのは難しい。

日本はどうだろうか。

20年6月、麻生太郎財務相(当時)は国会で日本の新型コロナウイルスの死者が欧米より少ないことについて「国民の民度のレベルが違う」と発言した。

日本国民は諸外国より優れた民族だと思い込んでいるのだろうか。
一般の市民からも「中国人は信用できない」「中国製品は壊れやすい」という声を耳にする。
こうした意識が排外的な「日本人ファースト」への支持につながるのではないか。

イスラエルはパレスチナへのユダヤ人国家建設運動シオニズムを続けてきた。

これは日本が旧満州(中国東北部)で行った「開拓」によく似ていると思う。

今、イスラエルは戦争中の日本と同じ過ちを犯している。当時の日本のように武力に頼り、外交を軽んじる政策に基づき教育と洗脳を行っている。私は18歳になり、徴兵制によって全く疑問なく入隊した。

「中東の現状は生きるか死ぬか」と言われ「近隣諸国は敵だ」と教わった。

国家を守るのは当然だと思い、3年間イスラエル空軍に所属し、訓練で戦闘機を操縦した。

入隊当時、軍隊の役割とは人を殺すためではなく国家を守るためだと思ったが、戦争が起きれば「敵」を殺害するのも仕方ないと考えていた。

来日後、日本は戦争を放棄した憲法9条を持ち、第2次大戦の後には一度も戦争をしていないと知った。

08年のガザ攻撃では多くの子どもたちが殺された。兵器は人を殺し、物を壊すこと以外に何もできないのだ。

洗脳から覚めた。

「近隣諸国は敵」と思わされると武力はやむを得ない、抑止力が必要とじわじわと思うようになる。

「抑止力」とは説得力のある言葉に聞こえるが、実際はどうだろうか。

武器を抑止力にするためには「敵」より強い武器を保有しなければならない。

「敵」も同じことを考えれば軍拡競争のいちごっこが始まる。

終わりのない、意味もない競争となる。

どの国であれ軍事費より、国民生活のためにより多くの国家予算を使うべきだ。

近隣諸国について「敵ではなく同じ人間だ」と子どもたちに教えなければならない。

国家の責任とは軍事力に頼るのではなく、外交で平和を保ち、犠牲者を一人も出さないことだ。

戦後80年に考えるべき大切な課題だ。



【DANI NEHUSHTAI】1957年イスラエル生まれ。

埼玉県在住の木工職人。反戦平和を訴えて講演を続ける。

著書に「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」。

理屈も 思想も 宗教も 何も知らんでいい ただ 戦争に NO! という・

正平調

建物の片隅に、そのブースはある。国内の遺跡や歴史的な建造物をプリントした紙が数枚。映像が流れているが、パンフレットの類いはない。そこは大阪・関西万博のパレスチナの展示室◆周囲で特産物やアクセサリーなどを売り買ひする声が飛び交う中、パレスチナの一面は簡素で静かだ。それがもう何かを訴えることも、声を上げることもできない現状を伝えているかのよう◆中東の地でイスラエル軍によるガザ市への地上侵襲が始まった。北部から南部に向け避難を始めた人々を空から地上から、軍の執拗な攻撃がのみ込む。がれきに響く爆音、絶望の叫び◆停戦の動きがある一方で米国とイスラエルの怪しげな協議が報じられる。米大統領が「ハマスを掃で、ガザをリゾート地に」と言えば、イスラエル高官からは「ガザは不動産の宝庫」の発言が◆国連がガザ市で飢饉が起きていると発表したのは先月のこと。アフリカ以外では初めての認定で今週には、イスラエル首相の扇動によるジェノサイド（民族大虐殺）を結論づける報告も◆「理屈も 思想も 宗教も 何も知らんでいい ただ 戦争に NO! という」。

この夏、絵本作家の長谷川義史さんが子どもの本の専門店「クレヨンハウス」に寄せたメッセージを唱える。 2025.9.20

今回は 私の好きな絵本作家 長谷川義史さんが、取り上げられている。

絵本作家 長谷川義史さんの生の声

「理屈も 思想も 宗教も 何も知らんでいい ただ 戦争に NO! という」

TVも SNSもマスコミも本当に日本人は解説が好きだ。解説よりもストレートの意見が知りたい。

解説やったら、論旨のはっきりした書物がいい。スタートはそこやと私も思う

From Kobe Mutsu Nakanishi



トランプ大統領が力でねじ伏せたイスラエルとハマス
双方が合意して、停戦・人質解放へ
そしてガザへの救援が届くなら、
まずはありがたい。

でも ほんまかいな・・・・と。
何でもかんでも 自分じゃなからうが・・・・とも。

トランプさんはノーベル賞がほしいという。
関西人がよく使う"知らんけどけどな"
とつくのですが・・・・

■ トランプ大統領の「強権と失望のはざまで揺れるアメリカ」

< <https://nml.mainichi.jp/c/aIaBb3qDfX6nsXbI> > 毎日新聞デジタル 経済プレミアム
[太田智之・みずほリサーチ&テクノロジーズ チーフエコノミスト](#) 2025 年 9 月 4 日

トランプ大統領の強権的な振る舞いが、米国社会を大きく揺るがしている。

相次ぐ政府高官の解任、中央銀行へのあからさまな利下げ要求、高等教育機関の締め付け、メディアや民間企業への露骨な介入、そして大統領権限を巡る司法への挑戦と、まるで独裁者かと見まがうばかりの状況だ。

しかしトランプ氏の権限拡大の試みは世論の支持を必ずしも得られていない。

経済は堅調ながら生活実感は改善せず、国民の政治不信は募るばかり。

こうした政治と社会のねじれは、米国だけでなく日本を含む先進国全体が直面する共通課題を映し出している。

トランプ氏の暴走とまらず

トランプ氏による影響力行使の暴走が止まらない。前回の本稿で「Trump-dominated global economy(トランプが支配する世界経済)」との米ネットメディアの記事の見出しを紹介したが、その勢いはさらに加速しているように見える。

そうした中、米連邦控訴裁判所は 8 月 29 日にトランプ関税の法的根拠について、1 審の米国際貿易裁判所の判断を支持し、大統領権限の逸脱と認定した。

しかし、トランプ氏は自身の交流サイト(SNS)で控訴審の判断を即座に批判。「党派的な裁判所が誤った判断を下した」と、むしろ問題は裁判所にあるとして、上訴する方針を明らかにした。

主張の正否は別として、共和党内はもとより、最高裁判事の 3 分の 1 を任命し、三権分立の柱である司法と立法を押さえた格好のトランプ大統領からすれば、下級審の判断は無意味とも言わんばかりの対応だ。

トランプ旋風一服も乏しい不満の受け皿

このようなトランプ政権に対し、英フィナンシャル・タイムズ(FT)コラムニストのジャネン・ガネシュ氏は「強権的な指導者に対抗する唯一の手段は選挙で勝つことだ」と指摘している。

しかし、盤石な体制を築きつつある権力者に対抗するのはなかなか容易ではない。

アメリカの大統領選挙からまもなく……………

以下有料記事で 中身見えず。

有料記事の中身の続きは見えませんが、アメリカ本国で起こっていること

そして、今 日本でも こんな風潮を真似する空気も感じています。

これでよいのか日本 From Kobe Mutsu Nakanishi

トランプ政権のやり方に、アメリカ一般人はどう見ているのだろうか……………

トランプ政権の強圧的な「アメリカ ファースト」

その強権ぶり 権力を振りかざしのしたい放題。

全く救いのない強権ぶりに、世界が混乱の渦の中。

実のところ アメリカの一般人はみんなどう見ているのだろうか… と

気になっているとき 毎日新聞で、こんな記事を見かけました。

有料記事で全体は見えませんが、今 アメリカで起こっていることの頭の整理の助けになれば

From Kobe Mutsu



トランプ米大統領の権限拡大の試みは必ずしも世論の支持を得ていない＝AP